

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 26 年度第 2 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成 26 年 11 月 20 日(木) 17:00~19:00

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、本村委員、金子委員 (Skype)、中西委員 (Skype)

事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

1. モデル授業案について

それぞれの到達目標について各委員からモデル授業の案が提示された。それぞれ「授業のねらい」、「授業内容」、「授業展開」、「課題学修」が示された。以下に一部の概要を記す。

(1) 到達目標 1 到達度 1

- ・ 同じ情報で記述や解釈が異なるページを比較・分析する
- ・ 情報の発信者・組織を調査し、根拠を含めて主張の妥当性や問題点を考察する

(2) 到達目標 1 到達度 2

- ・ ネットコミュニケーションのトラブル要因を整理分析し、発信の注意点をまとめる
- ・ インターネットを理解させ、炎上事件について要因・防止などについて考察する

(3) 到達目標 1 到達度 3

- ・ 情報社会での危険や不安について人間と機器の特性から検討しまとめる
- ・ 被害を調べ、身を守る方法や被害対処方法、加害者にならない留意点を考察する

(4) 到達目標 2 到達度 1

- ・ グループでクラウドストレージを使いレポートを作成する
- ・ 少子高齢化などの課題について資料を様々な情報収集手段で調査検討する

(5) 到達目標 2 到達度 2

- ・ 公的なデータを課題について集計し考察する、また報道との食い違いも考える
- ・ 表計算や統計分析ソフトを活用して情報を分析・加工し、結果を Web で発表する

(6) 到達目標 2 到達度 3

- ・ 災害を想定し、メッセージアプリなどの活用や課題、必要な準備を考察する
- ・ ICT の利点・欠点を踏まえて、新たなサービスの可能性を考察する

(7) 到達目標 3 到達度 1

- ・ パソコンを学内ネットワークに接続する設定を行う
- ・ グループで簡易プログラム言語を使ってゲームを作成する
- ・ 日本語のプログラム環境などで逐次・条件分岐・繰り返しの例を実行する

それぞれのモデル授業案について、以下のような意見があった。

- ・ 高校で習得している部分とのメリハリ、時間配分や重みづけを設定してはどうか。
- ・ 演習など、どのような形式なのか、評価方法をどのようにするのか。
- ・ 初年次のオリエンテーション教育にいれるのか、通常の授業に組み込むのか。
- ・ 反転授業形式ではどうか、知識はネットで事前に聞かせて授業では課題を出してグループワークなどを行ってはどうか。

- ・ 授業としては何コマ分の想定になるのか。
- ・ 到達目標 1 到達度 2 にコピー&ペーストを取り上げてはどうか。
- ・ 学年で分割する形式、共通教育で広く浅く、その後に専門で集中。
- ・ 取りあげる問題で文系向き、理系向きのものになる。
- ・ 課題発見について、現状を把握してビジョンを描き、そのギャップが課題だがイメージが難しいか。
- ・ 情報活用力が求められ、価値の創出が大学教育でのポイント、意見を組み合わせて発想させること。ICT 基礎知識、倫理力、数理力を統合したもの。
- ・ 例えば、モデル授業は 3～5 コマ程度をイメージしたものもあり、90 分に落とし込むのは困難。
- ・ 最小限の仕組みの理解、深く学ぶパターン、誰もが必要とされる部分などの段階をつけてはどうか。
- ・ サイバー関係の問題を取り上げてはどうか。

2. 到達目標の見直しについて

モデル授業の検討でも高校の学習との重複が意識された。そこで、データ活用力について検討し、ガイドラインに加える必要があるのではないかという意見があった。

- ・ 到達目標 2 について、高校までの情報活用能力との差異を明確にするために、大学生として、「価値を創出させるためのデータ活用力」というイメージで書き換えてはどうか。
- ・ 到達目標 3 の到達度 3 は到達目標 2 に入れてはどうか。それで、到達目標 3 は技能編として考えてはどうか。
- ・ イノベーションにつながるデータ活用は、3 年程度での専門科目レベルになるか。
- ・ 例えば、データ活用としては以下のプロセスの実践が求められる。「調査・分析企画」、「情報収集・整形」、「集計・分析」、「図解」、「要約」、「統合・総合」、「企画立案・実行」

V. 今後の予定について

- ・ 次回の分科会は、1 月 15 日または 23 日を候補として Net で調整することにした。
- ・ 到達目標 2 にデータ活用力を取り込む形で案を持ちより見直すことにした。